



一般社団法人  
うるわしの桜井をつくる会  
〒633-0091 奈良県桜井市  
桜井1259エルトさくら内  
TEL&FAX:0744-43-7773  
URL: http://lets.some.jp  
E-mail: lets@some.jp

# うるわし通信

令和2年3月

## 食の安全・安心を確かなものに

### ～連続学習会の開催呼びかけ～

うるわしの桜井をつくる会は、発足10年を迎えることとなりました。

この間、環境・景観・地域歴史の探求・教育や福祉課題等々について、シンポジウムや学習会の開催、うるわし通信の発行等を通じて、問題提起をおこなうと共に、共に取り組みを進めてきました。

今年の前半の取組みとして、うるわし通信でも紹介してきた「食の安全・安心について」学習会を開催し、どのような食材・食品を地産地消の方向性を持って取り組めるのかを考えます。

具体的には、3回の学習の機会を持つ予定です。

1) 食の安全・安心を取り巻く今日の状況を見直す。

- ◇食と農薬(ネオニコチノイド系農薬)
- ◇食品添加物について(光と影の再確認)
- ◇遺伝子組み換え食品(グローバル化の中で)
- ◇種子法について

2) 地域での具体的な取組みの様子を知る

- ◇自主活動グループの取組みを知る
- ◇子育ての中での食の安全・安心
- ◇生産者の立場から

3) 桜井地域で今求められる課題

- ◇私たちが今から出来る取組み
- ◇活動を継続していくために



関心のある方々の積極的な参加を呼びかけますので、ボランティアとしての参画をお願いします。

\*\*\*\*\*

#### 第1回学習会の案内

日時 4月17日(金曜日) 13:30~15:00

場所 エルト桜井 市民交流拠点学習室

内容 上記「食の安全・安心を取り巻く状況を見直す」ためにスライド映像を使っでの学習会

\*提起者 生活協同組合コープ自然派奈良 食育実践プランナー 大竹典子さん他

\*\*\*\*\*

\*事前の参加申し込みが必要です。

申し込みについては、うるわしの桜井をつくる会:E-mail: lets@some.jp又はFAX:0744-46-3400までお願いします。定員は30名となります。(資料代100円)

## 卑弥呼の里芸術祭の取組み(報告)

～障害のある人もない人も ともに～

2月8日(土)～11日(火・祝)に、桜井市民会館ロビーで、卑弥呼の里芸術祭作品展が開催され延べ350名を超える参加者がありました。芸術祭は今年で3回目、作品展は昨年に続いて2回目となりました。

市内の8福祉事業所からの出展や物品販売、そして県障害者作品展の出展者の諸作品、また市内小中学校特別支援学級生や二階堂養護学校生の作品、今回の作品展の趣旨に賛同頂いたさまざまな分野の芸術作家の方々の出品を含め100点以上ものバラエティーに富んだ諸作品が集まりました。

『光る個性が集結』と新聞のタイトルに書かれたように、手芸・木工・絵画・書・染織・陶芸等の多様な創作作品が、ロビーいっぱいに表示されました。併せて、桜井が「たんぽぽの家」運動の発祥の地でもある歩みの紹介コーナーや、障害者の文化芸術に関する推進法(平成30年制定)や法に基づく『基本計画』についての紹介も行われました。

昨年からの教訓として、展示だけでなく、出展作品の解説をおこなっていただく取組みや、ワークショップの形で実際に制作体験をおこなう時間帯も設けた4日間にわたる芸術祭となりました。

アンケートでは、作品の素晴らしさを身近に感じる事が出来たとの意見が多数寄せられました。また、このような取組が一層広がると共に、継続して開催されることの期待が多く書かれていました。

今後の芸術祭の広がりをつくるために、2月22日に関係者・団体・組織等々による情報交流会が開催されました。そこでは、様々な反省点と共に、若い世代の参加を一層働きかけることの大切さ、取組みへの参加体験を重視していくこと、そして一層の広報の充実策などが話し合われました。2020年度に向けて早期の取組を開始し、桜井市行政や県行政にも一層の協力支援体制を要請していくと共に、関係者の頑張りを確認する場となり来年度は、3月12日(金)～13日(土)の開催を目指すこととなりました。読者の方の本活動への参加を期待します。

卑弥呼の里芸術祭実行委員会 楠木克弘



県障害者作品展への出展作品群



市内小中学校特別支援学級生作品コーナー

## 大神神社「三輪山会館」の竣工に参加して

「上品な参道づくり」と「三輪の町の賑わい創出」を目的に、平成22年12月に「三輪まちづくり会議」が発足し、平成27年10月に奈良県と桜井市との間で「大神神社参道周辺地区まちづくり基本協定」が結ばれ、県道三輪山線が拡幅整備されることとなりました。

この間、大神神社は参拝に要する拝殿や祈祷殿、儀式殿等は平成の大造営で整備されましたが、祭典、参拝に付随する行事、直会、休憩等に要する施設はそのほとんどが、昭和43年の明治維新百年記念事業で施工されたもので、すべて51年が経過しており、利用法も時代とともに変化してきたこともあり、第2期大造営が計画されました。

そのような経過の下に、仮称「直会殿・能楽堂」の竣工祭が令和元年11月1日(日)に実施され、建物の名称は「三輪山会館」と命名、11月10日より数日間にわたり各種の記念行事が、行われました。鉄筋2階建て、延べ床面積は約4,900㎡で、建物南側部分に能楽堂(客席350席)を持ち、建物北側には直会室として瑞光の間(300名収容)と曙の間(100名収容)が設けられています。特に能舞台の鏡板は、文化勲章受章者の故前田青邨氏による老松が描かれています。

11日～13日にかけて行われた舞台披き式では、観世・金剛・金春の流派による素謡や大蔵流狂言による『福の神』の奉納がおこなわれました。例年、大神神社の例大祭では「後宴能」として、能『三輪』、狂言『福の神』等が祈祷殿前の仮設舞台で開催されてきていますが、今年の4月10日には、三輪山会館で開催されることになります。

桜井の地は、約600年前に多武峰の談山神社(当時は妙楽寺と呼ばれていました)で、大和猿楽四座が新作能を競演する場として重要な位置を占めていました。観世座を創設した観阿弥・世阿弥父子も多武峰で演能しています。また、多武峰周辺は、鼓の里とも呼ばれ、鼓の筒を制作する職人が活躍し、著名な鼓を造っていた場所でもあります。

そして、能楽をはじめ飛鳥時代に聖徳太子が土舞台でおこなった伎楽など芸能文化の源流であることを再確認していきたいと考えます。この度の三輪山会館竣工が、能舞台を持つ立派な会館として開館したことを喜ぶと共に、神社関係者はもとより多くの方々が気軽に利用される文化芸術の役割を担って頂くことを期待します。

(高瀬 安男)



三輪山会館竣工祭



能楽堂

## うるわしの桜井をつくる会10年の歩み

平成22年3月14日に発足し、おかげさまで10周年を迎えるにあたり、過去の記録をまとめてみました、当時の思い出を振り返っていただけたら幸いです。



平成23年6月12日 うるわしの桜井をつくる会第1回定時総会  
公開シンポジウム「三輪山の風景街道をつくる」



平成23年9月10日  
『三輪山の風景街道をつくる』発行



平成25年1月26日 新春交流昼食会  
あるぼ〜る

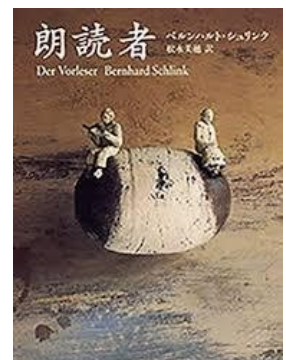


平成26年11月26日 桜井記紀万葉歌碑原書展  
大阪あべの ハルカス

## お知らせ

### ● 図書館友の会

3月の読書会は、ベルンハルト シュリンク(著)『朗読者』です。  
15歳のぼくは、母親といってもおかしくないほど年上の女性と恋に落ちた  
だが、ハンナは突然失踪してしまう、彼女の隠していた秘密とは何か。  
日 時：3月24日(火)13：30から  
場 所：桜井市市民活動交流拠点会議室(エルト桜井2階内)  
問い合わせ先 浅川 肇 TEL：090-1961-6345



### ● 図書館友の会総会のお知らせ

日 時：4月28日(火)10：00から  
場 所：桜井市市民活動交流拠点会議室(エルト桜井2階内)

【編集後記】1月号の発行時には、新型コロナウイルスのことは、身近な話題にはならなかったが、奈良県で国内初の感染者が出たとの報道を受けて、奈良公園の観光客の減少をはじめ、全国各地で様々なイベントの中止といった状況になっている。

一方で、パンデミック（病気が世界の複数の地域で同時に大流行）100年周期説もささやかれている。1720年:ペスト、1820年:コレラ、1920年:スペイン風邪。そして2020年の今回のウイルス。

治療方法が未だ無い中で怖い病気との感覚が、他方では中国人(日本を含むアジア人)への偏見と排除が強まっていると報道されている。かつて、ハンセン病に対する時もそのような認識と、政府対応の誤りが偏見を長期に放置させてきた。今回の事柄についても、正しい知識の周知と理性的対応が求められている。(編集子 K)

うるわし通信発行人  
高瀬 安男  
TEL:090-1678-9157